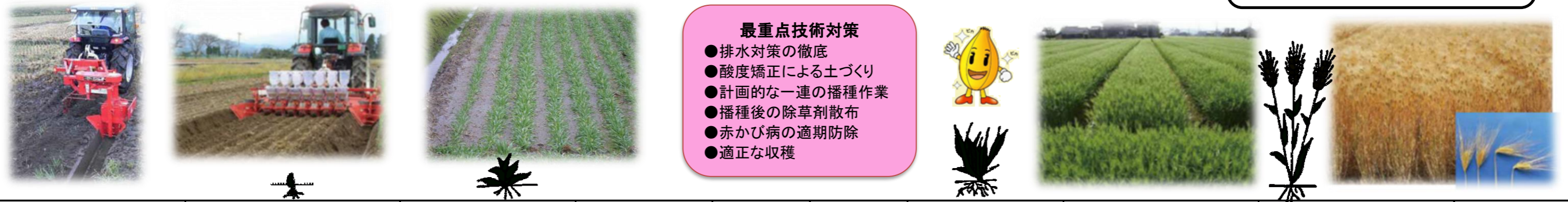


令和7年産 いなば大麦栽培こよみ

目標 単収350kg/10a

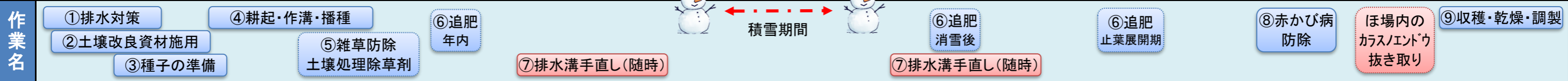
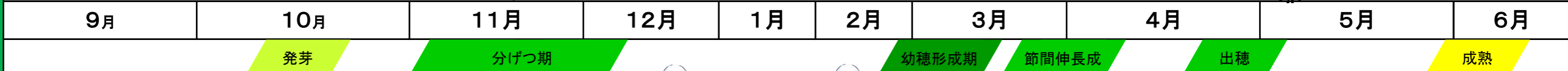
いなば農業技術者協議会

生育のイメージ



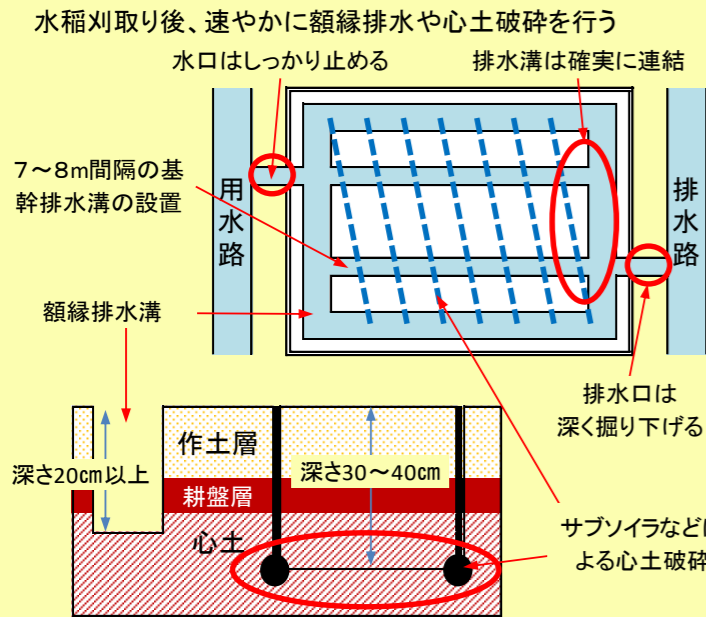
最重点技術対策

- 排水対策の徹底
- 酸度矯正による土づくり
- 計画的な一連の播種作業
- 播種後の除草剤散布
- 赤かび病の適期防除
- 適正な収穫



栽培技術のポイント

①排水対策



②土壤改良資材等の施用

・土壌pH6.0~6.5を確保するためアルカリ資材を散布する

資材	10aあたり施用量	備考
砂状ケイカル	100kg以上	酸度矯正

③種子の準備

播種時期	目標苗立数 (本/m)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散布
9月26日以降	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0

【種子消毒】

『ベンレート水和剤』 種子重量の0.5%均一に粉衣
※種子10kgに水200mL+薬剤50g混和

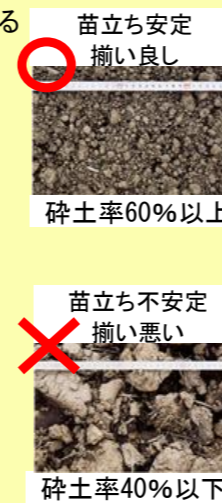
④耕起・作溝・播種

・ほ場が乾いたときに、耕起~播種の一連作業を1日で実施する

・年内生育量の確保のため、播種は10月中旬までに完了する

・ドリル播では播種深度3cmを目標とし、浅まき、深まきに注意

基肥	10aあたり施用量	備考
大麦用544 スーパーSRコート	40~45kg	肥効調節型基肥 (一発肥料)
化成肥料14-14-14 (全層施肥)	32kg (40kg)	分施肥基肥 (追肥必要)



⑤雑草防除(土壤処理除草剤)

・連作ほ場や雑草の多いと予想されるほ場では除草剤を使用する

・表面散布したほ場では使用しない

薬剤名	10aあたり 散布量	使用時期	適用雑草
リベレーターフロアブル	60~80mL 水100L	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	一年生雑草
リベレーターG	4~5kg	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科雑草2葉期まで)	
トレファノサイド乳剤	200~300mL 水100L	播種後発芽前 (雑草発生前)	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く)
トレファノサイド粒剤2.5	4~5kg	播種後発芽前	



⑥追肥

・分施肥基肥栽培のみ生育に応じて行う (肥効調節型基肥栽培では追肥を行わない)

肥料名	10aあたり施用量		
	年内 (播種1カ月後)	消雪後 (2~3月頃)	止葉展開期 (出穂12日前頃)
硫安	20kg	20kg (茎数により減肥)	10kg (葉色により減肥)

⑦排水溝手直し

・排水対策は大麦栽培の"かなめ"

・11月下旬の降雪前、2月下旬の融雪期に随時行う



⑧赤かび病防除

・赤かび粒の混入限度は0.0%です

・開花状況を確認し2回防除を徹底する

防除時期	薬剤名		10aあたり 散布量
1回目 穂揃期	粉剤	トップジンM粉剤DL	4kg
	液剤	トップジンM水和剤	薬150g 水150L
2回目 1回目から7日後	粉剤	ワークアップ粉剤	3kg
	液剤	シルバキュアフロアブル	薬75ml 水150L



⑨収穫・乾燥・調製

・ほ場内のカラスノエンドウを収穫前に抜き取る

・子実水分30%以下になったら収穫開始

・乾燥仕上げ水分13.0%

・網目2.3mm使用での調整

